



アンサンブル



2024.10.22
No.13

読書の大切さ ～読書週間始まる～



もうすぐ読書週間（10月27日～11月9日）に入ります。今年も既に多くの本を読まれた方もおられると思います。この読書週間が制定されたのは昭和22年ですから、今年は実に第78回ということになります。読書週間の歴史について、公益社団法人 読書推進運動協議会のホームページから引用します。

終戦まもない1947年（昭和22）年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）と定められ、この運動は全国に広がっていきました。

ルーツを紐解くと戦前にも図書週間や図書館週間という名称のものがあったようですが、戦争により中止されていました。

これまで日本は「世界有数の本を読む国民である」と言われてきましたが、昨今の状況を見るとこの言葉は全く当てはまらないように思います。私は時々電車に乗りますが、車内の光景は一昔前とは隔世の感があります。電車に乗った際、私は可能な限り読書を読みますが、最近ではスマホ画面を凝視している人が目に付き、新聞や本を読んでいる人の姿は極端に少なくなってきました。よく「子どもが本を読まなくなった」と言われますが、大人についても急速に活字離れが進んでいるように感じています。

三宅小学校では、月曜日と木曜日に朝読書の時間を設け、日頃から読書に親しむ活動をしています。また今週から読書週間が始まり、一冊でも多く読んでもらい、本に興味を引くような活動も行われます。

小学生である今のうちに三宅っ子に身に付けてほしい習慣。それは、読書の習慣です。読書、つまり本を読む、または、文字を読む、活字を読むことが小さいうちから習慣になっていると、大人になるまでの過程でとても役に立ったり、得をしたりすることがあります。少しあげると、心が豊かになり、勉強も分かるようになって、いろいろなことが楽しく感じてきます。それは、読書には、「脳が活性化され、集中力が増し、想像する力が高まることで、成績が上がったり、人に対して思いやりをもてるようになったりする効果」があるからです。一方、スマホやタブレット、テレビやパソコンなど、便利なものがたくさんあって、気軽に動画やゲームを楽しむことができる世の中ですが、そのような動画・ゲームは、やっているその時はとても楽しいと思いますが、夢中になってやりすぎると、目が悪くなるだけでなく、脳に悪影響を及ぼします。まさしく、読書と正反対です。

今年の読書週間の標語は『この一行に逢いにきた』です。

この週末には、ぜひ家族で本を読み、その中から新たな発見を試みてはいかがでしょうか。

